

1 『復讐サロン』

2 ※実際の作品とは微妙にセリフが異なる点があります

3 ■キャラクター

4 ●北斗

5 身長：186センチ

6 年齢：28〜35

7 枕営業バチバチのホスト。

8 あまたの女をパンクさせて風俗に沈めてきた。

9 破産したヒロインに「借金返せるよ」と甘言を弄して数十人に輪姦させたことにより、

10 ヒロインに復讐される。

11 ヒロインのことは「姫ちゃん」と呼ぶ（自分の客を全員そうよんでる）。

12 ●コンシェルジュ

13 苦しめられた女性の復讐をサポートする優しい人。

14 男をさらって身動きが取れない状態にして拷問する機材もそろえてくれるいい人。

1 ■共通プロローグ ウエル、ウエル、ウエル

2 なんてことのないリラクゼーションサロンの一室に訪れるヒロイン。
3 そこは非合法的な復讐の手伝いをしてくれる、女性専用のサロンだが、とてもそうとは思
4 えないほどやさし気で、穏やかなコンシェルジュが出迎えてくれる。
5 心傷つき、怒りに燃え、しかし常識と不安によって復讐に踏み切れずにいるヒロインを、
6 コンシェルジュは優しく、ヒロインにとって本当に選ぶべき選択へと導いていく。
7 うさんくさい感じにならないよう、優しくしたわるように。

10 SE:ドアが開く

11 SE:ドアベル

12 BGM:心地よいカフェ

15 【6 遠めに】

16 コン「いらっしゃいませ。

17 ご予約のお客様ですよね？

18 お待ちしておりました。

19 どうぞ、こちらのソファに」

21 SE:足音

22 SE:ソファに座る

24 【1】

25 コン「さあ、聞かせていただけますか？

26 あなたがどれほど苦しめられたのか。

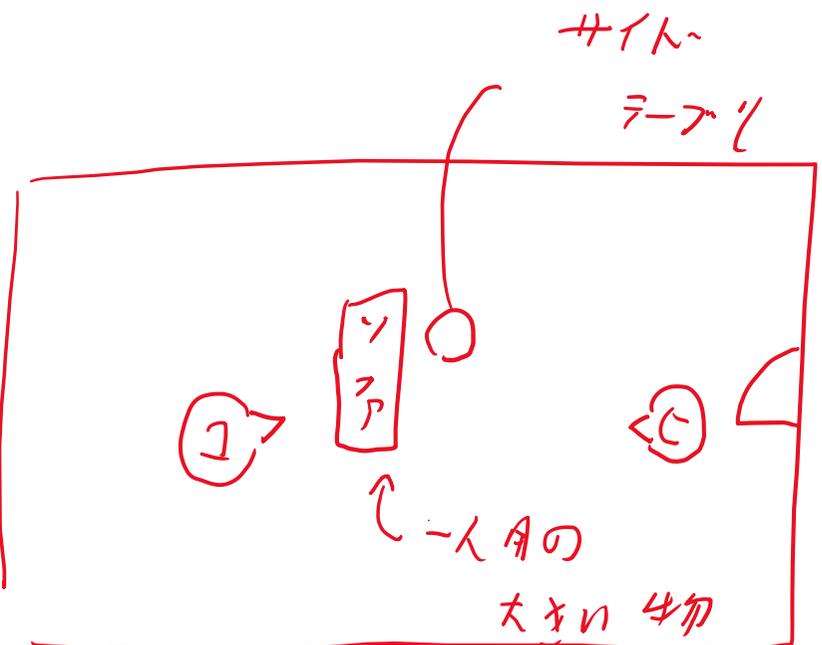
27 どれだけ怒りを抱き、憎しみかられ、

28 そして、どれほどの勇気を振り絞ってここに来たのか。

29 資料は事前にいただいていますか……

30 お客様の口から、直接聞かせていただきたいのです」

32 【コンシェルジュ、立ち上がり、ヒロインの正面を行ったり来たりしながら】



33
34
35

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35

【ヒロインの前を行ったり来たりしながら、最後に背後に立つ】

コン「ご存じの通り、当店は少々過激な方法によって、
お客様の心のケアをお手伝いしております。
お客様のように優しい方は、
その過激さに耐えられないことも多い。
ですが、報いを受けるべきクズというのは、
この世界に存在する」

【4 背後から囁く】

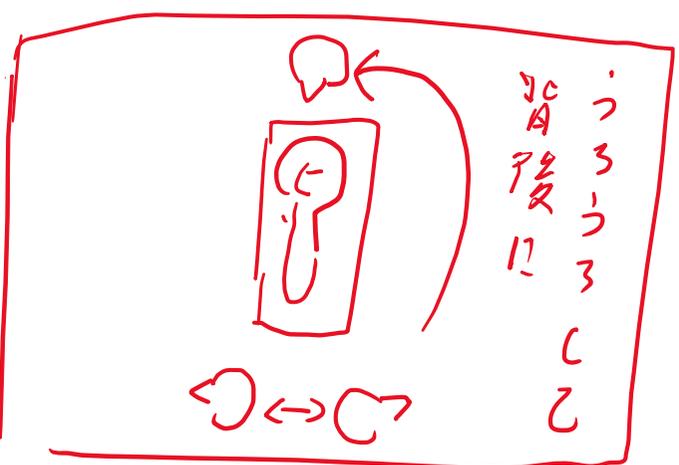
コン「あなたを苦しめた、あの男のように」

【4 耳元で】

コン「さあ、思い出してください。
あなたが一体何をされたか。
それを話してもまだその男を許せると思った時は、
どうぞお帰りになってください。
けれど、やはり許せないと思ったときは——ふふ。
目にも見せてやりましょう」

【6】

コン「わたしと、あなたで——ね♡」



■トラック1 北斗

北斗に呼び出されたヒロインが待ち合わせ場所に向かうと、北斗によって雑居ビルの一室に案内される。
そこには無数の男たちが待つっており、ヒロインは彼らに「一回一万円」という安値で体を売り、借金の返済をするように北斗に迫られる。

場所：繁華街

時間：夜

SE：行きかう車や雑踏

SE：女性の足音

【北斗、トボトボ歩いてくるヒロインを見つけて手を振る】

【6】

北斗「あ、姫ちゃん！ こっちこっち！」

SE：走ってくる足音

SE：抱きしめる衣擦れ

【3 抱きしめて】

北斗「よかったあ！

姫ちゃんすっごい落ち込んだから、

心配してたんだ。

もしかしたら、今日来てくれないんじゃないか……って」

【1 離れて】

北斗「んー？ まーだ不安そうな顔してる。

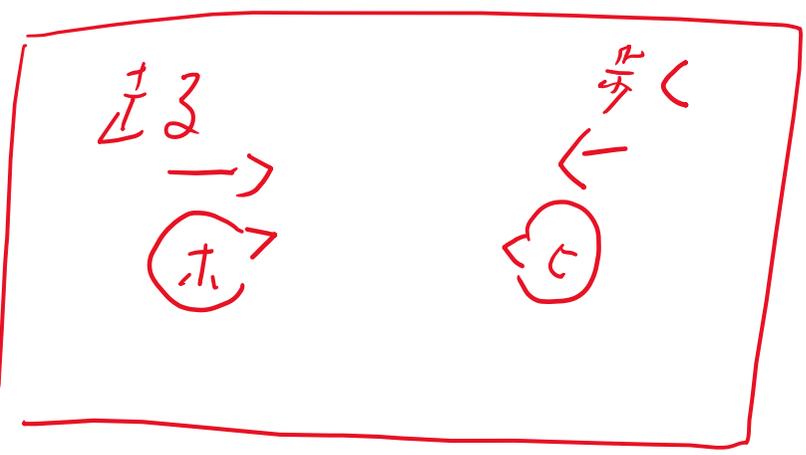
大丈夫だよ。

姫ちゃんのツケなんて、たった五十万だろ？

それくらい、俺が紹介する仕事なら一晩で稼げるから。

相談してくれて嬉しかったよ。

もっとヤバイツケ残して飛んじやうお客さんも普通にいる世界なのにさ」



1 【3 耳元】
2 北斗「俺、姫ちゃんのそういうまじめなところ……だあいすき♡」
3

4 【北斗、ヒロインの腰を出して歩き出す】

5
6 SE:歩き出す足音
7

8 【3 腰を抱く距離】

9 北斗「さ、行こうか。そのビルが仕事場なんだ」
10

11 【ヒロイン「どんな仕事なの？ 風俗？」】
12

13 北斗「えー？ 俺が姫ちゃんに、風俗なんてさせるわけないだろ。
14 傷つくなあ。

15 姫ちゃんのお仕事は、なーんにもしないで寝てること。

16 AVでもないよ。顔バレしたくないだろ？

17 姫ちゃんの家って厳しいって言ってたし……医者一族だっけ。

18 だからホストにツケがあるのも内緒……だもんね？」
19

20 【ヒロイン「それだけで、五十万も？」】
21

22 北斗「稼げる稼げる！ 前にこの仕事紹介した子なんて、

23 お金に困るたびに、またあの仕事紹介して”って言うってくるくらい。

24 あ、その階段降りるよ」
25

26 SE:階段降りる

27 SE:鉄扉を三回ノック

28 SE:ドアが開く
29

30 【北斗、なかから出てきた男に挨拶する】
31

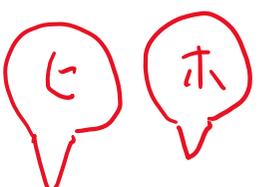
32 【3 1を見ながら】

33 北斗「お待たせ。」

34 連れてきたよ、今回のお姫様。

35 目標金額は五十万だけど……一晩で行けるよね？

36 【嬉しそうに】そっか！」



1
2
3 【3 ヒロインを見て】
4 北斗「よかったね姫ちゃん。余裕だったさ！」
5

6 【北斗、ヒロインの背中を押す】
7

8 【3→5】
9 北斗「ほら、入って入って」
10

11 SE:ヒロイン、よろけて部屋に入る。
12

13 SE:背後で鉄扉が閉まる

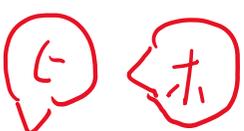
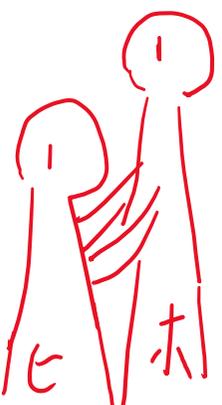
14 ※地下室ですが防音仕様の設定なので反響させなくて大丈夫です
15

16 【部屋に入ると見知らぬ数十人の男がおり、動揺するヒロイン】
17

18 【5】
19 北斗「えーと……今いるお客さんはっと……
20 二十人くらい？
21 ちよつと少くない？
22 ま、いつか。
23 朝までにはもう十人くらい増えるだろうし……
24 じゃあ、姫ちゃん——」
25

26 【6 背後から耳元に】
27 北斗「服脱いで、ベッドに行こうか。
28 一人一発1万円って言うてあるから、
29 一人と一回ずつやるだけで二十万になる。
30 だーいじょうぶ。
31 二発やったやつからは、ちゃんと二万取るから、
32 朝までには五十万なんてかるーく超えてるって。
33 姫ちゃんは安心して、ベッドで横になってるだけでいいからさ」
34

35 【愕然として振り向いたヒロインをあざける北斗】
36



1
2
3 【1】
4 北斗「なんだよ、その目。」
5 金もないのにホストに狂って、払えもしないツケため込んで、
6 泣きついてきたのはそっちだろ？
7 たった一晚寝てるだけで何十万も稼げるんだから、
8 女ってほんとちよろい人生だよなあ」
9

10 北斗「ま、目えつぶってれば、俺とやってる気になれるんじゃない？
11 じゃ、俺朝まで店で仕事してっから。
12 借金返済頑張ってね——姫ちゃん♡」
13

14 SE：遠ざかる足音

15 SE：鉄扉の開閉

16 ■場面転換

17 回想を終え、再びサロンへ。
18
19

20 BGM：フェードイン
21

22 【泣きじゃくるヒロインを、優しく励ますコンシェルジュ】
23

24 【1】

25 コン「ああ……おかわいそうなお客様。」
26

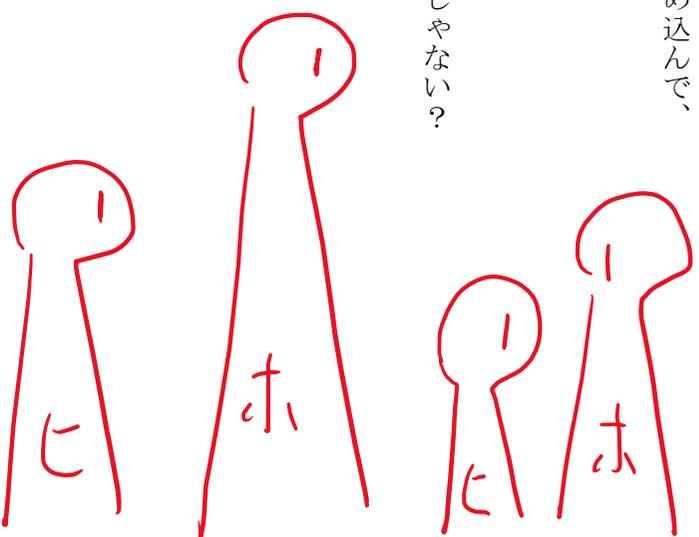
27 どうか、泣かないでください。

28 大丈夫、大丈夫ですよ。

29 私がお客様の復讐をお手伝いいたしますから。

30 さあ、顔を上げて。

31 一緒に復讐の準備を始めましょう」
32
33
34
35
36



■トラック2 何度も貫いて

手錠で拘束されてる北斗を、ヒロインが虐待する。

時間…不明

場所…どこかの部屋

【北斗が目覚めを覚ますと、床に座った状態で手錠でつながれている。目隠しをされており、何も見えない。】

手錠の鎖は床の金具に固定されており、鎖は立ち上がれない程度の長さ。

北斗は助けを呼ぶべく叫ぶが、誰も現れないまま数時間放置されているところにヒロインが声をかける】

SE:鎖がちやがちや

【6】

北斗「くそ、外れない……！ なんだよ、この手錠……！

おい！ だれか！ 誰いませんかー！

助けてください！ 助けてー！

【半泣きで】動けないんだ……！ 手錠でつながれて……！

ああ、もう……！ どうなってんだよこれ……！

なんで俺がこんな目に……！」

SE:椅子を引く音

北斗「ビクっとなり」……え？

なに……？ そこに誰かいんの？

嘘だろ、ずっとそこで俺を見てたってこと？

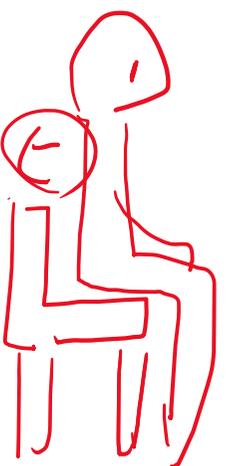
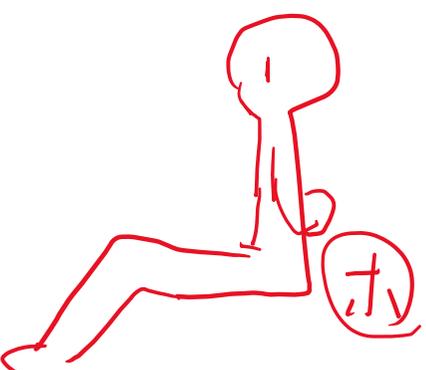
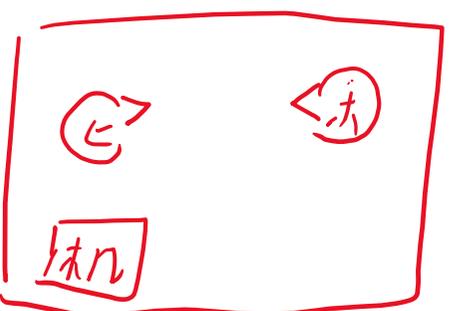
【少しほっとして】なんだ、やっぱただのイタズラかよ……！

ってか、撮影してる？ もう十分ビビったよ！

いくらでも笑っていいから、手錠と目隠し外してくれ！」

SE:ヒロインの足音

【ヒロイン、「イタズラじゃないよ!」】



1 【6】
2 北斗「え、その声……姫ちゃん？
3 なんでここに……ってか、え？
4 悪戯じゃないなら、どういう……」

5
6 【北斗、とっさに「ヤバい女に拉致された」と気づき、ヒロインの機嫌を取り始める】

7
8 【1-1】

9 北斗【察して】あー……【明るく】そっかそっか！

10 これ、姫ちゃんがやったんだ。

11 よかったあ、相手が俺の姫ちゃんだ。

12 最近、連絡しても全然返事くれなかったし、

13 もう俺に興味ないのかなって思ってたけど……

14 俺の事、さらって手錠でつないじゃうくらい、

15 独り占めしたかった？」

16
17 SE:刃物を出す (五本セット)

18 SE:刃をこすり合わせる音

19
20 北斗「え？ 何、今の音……。

21 刃物……？

22 ねえ、せめて目隠し取ってよ。

23 お願い。姫ちゃんの顔、見たいんだ。」

24
25 SE:近づく足音

26
27 【ヒロインが何も言わずに近づいてくるので、焦り始める北斗】

28
29 【1-1-1】

30 北斗「姫ちゃん……？ ねえ、何か言ってよ。

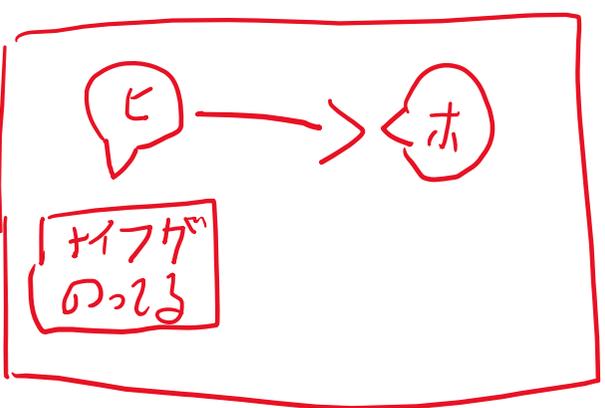
31 黙っているとマジっぼくて怖いって。

32 ねえ……この前の事、もしかして怒ってる？」

33
34 SE:足音ストップ

35 SE:しゃがむ衣擦れ

36



1 【ヒロイン、北斗の正面にしゃがみこむ】

2

3 【1】

4 北斗「ご、ごめんね！ 俺、無神経だったよね……！」

5 本当は、あれからずっと後悔してたんだ」

6 姫ちゃんみたいな心のキレイな子に、

7 あんな仕事を紹介すべきじゃなかったって……。

8 ツケは全部払ってもらえたけど、

9 姫ちゃんが来ない店って、ほんと最悪で……」

10

11 北斗「こんなことになるくらいなら、

12 ツケなんて俺が引き受ければよかったって。

13 ね、今からでも、そうさせてくれない？

14 一緒に銀行にいったって、お金返したら、

15 美味しい物でも食べるに——！」

16

17 SE：刃物を振り下ろす

18 SE：刃物が太ももに突き刺さる（※抜かずに刺しっぱなし）

19

20 【北斗、太ももにナイフをさされてパニックになる】

21

22 SE：鎖ガチャガチャ

23

24 北斗「【一瞬何をされたか分かりかいできず】え？

25

26 あ、ぎ……ぎやあああああ！

27

28 あ、ああ足……！！ 足が……！！

29

30 これ、刺したのか！？ なあ！

31

32 あ、ああ……やばいって、これ、

33

34 血いでてるよな？ すげえ血い出てるよな！?

35

36 何考えてんだよ!?

37

38 頭おかしいんじゃないのか!? 本当に刺すなんて！

39

40 どうかしてるだろお前さあ！」

41

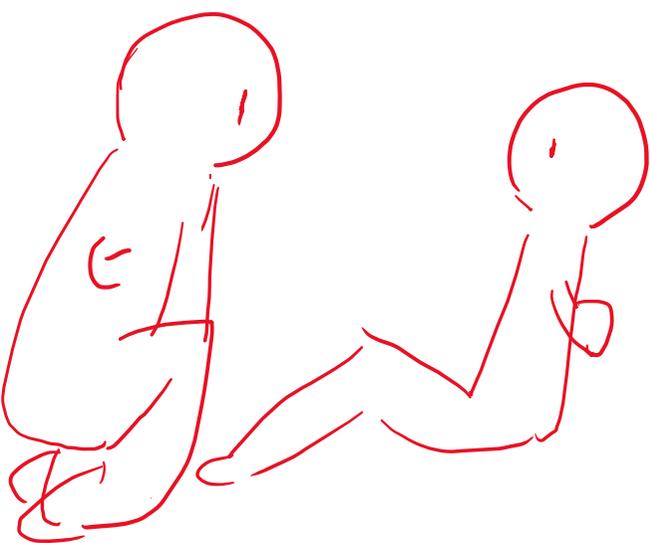
42 SE：刃物を振り下ろす

43

44 SE：刃物が更に太ももに突き刺さる

45

46 SE：鎖ガチャガチャ



1
2 【1】
3 北斗「ああああ！ うあああああ！
4 はあ、はあ……！ いてえ、くそ……ッ！
5 いてえ……いてえよお……」

6
7 SE: ナイフで床を叩く

8
9 北斗【怯えて】ひっ……！ 嫌だ！
10 もうやめて！ 嫌だ嫌だ嫌だ……！
11 殺さないで、お願いだ……！」

12
13 【ヒロイン「まだ二本しかさしてないよ」】

14
15 北斗「まだ二本って……」
16 【半泣き】「どういう意味だよ、それ」

17
18 【ヒロイン「私が犯された回数分さすって意味」】

19
20 北斗「犯された回数……って……」
21 あの夜に……って……？

22 【泣き出す】「そんなの……ここまでするほどの事かよ！？」
23 借金返した上に、手元はかなり残っただろ？
24 割りのいい仕事なんだよ、本当に！
25 またやりたいって言う女だって大勢いるんだ！
26 なのにこんな……！」

27
28 SE: 刃物を振り下ろす

29 SE: 刃物が突き刺さる

30
31 北斗「いつぎ……あああああ！
32 ああ、ああ……！
33 なんつで……こんな……！
34 はあ、はあ……ああ、う……
35 なあ、これ死んじやうよ……！
36 俺、本当に死んじやうから……！」

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【1】
北斗「謝るから……！ ごめん、ごめんなさい……！
【すすり泣き】なんでも言う通りにするから！
お願いだから、もう刺さないでください……。
お願いします……お願い……！」

SE:ナイフで床のコンクリ引っ掻く

北斗「何……？ なんの音？
今度は何するつもりだよ！?
なあもういいだろ！ 十分だろ！?
反省してるよ！ 十分反省した！
ホストもやめるし、金だって全部あげるから……ヒッ！」

【ヒロイン、ナイフを北斗の顔に当てる】

SE:衣擦れ

SE:ナイフを顔にへたへた当てる

北斗「か、顔……顔はやめてくれ……！
商売道具なんだ……！」

【ヒロイン「ホストやめるのに？」】

北斗「ホ、ホストはやめるけど、仕事は、
しないと……だろ？
俺は……お、俺なんか、顔意外に取り柄ないから、
顔がダメになったら、何もできない」

【ヒロイン「生きて帰れるきでいるんだ！】

北斗「え？ あ、え……だって……
い、生きて帰れ……る、だろ？
だって、俺死にたくない……！
死にたくない！ 死にたくない！」

1
2 【1】
3 北斗「警察には行かないって誓うよ！
4 病院にも、酔っぱらって自分でやったって言う！
5 だから——」
6

7 【ヒロイン「うるさい」】
8

9 SE：刃物を振り下ろす

10 SE：刃物が更に太ももに突き刺さる

11 SE：鎖ガチャガチャ

12
13 北斗「ぎやああああ！ うああああ！」
14

15 SE：ナイフ指したままぐりぐりえぐる
16

17 北斗「やめろ！ やめる動かすな！
18 やめてくれ頼む頼む頼む！
19 ああああ！ うあああああ！」
20

21 SE：えぐるSEストップ
22

23 北斗「はあ、はあ、はあ、はあ……
24 頼む……
25 殺さないで……殺さないで……殺さないで……」
26

27 【ヒロイン「助けてあげてもいい」】
28

29 北斗「え……？ ほ、ほんとに？
30 助けてくれるの？ 本当に？」
31

32 【ヒロイン「私のペットになるなら許してあげる」】
33

34 北斗【【半ば呆けて】】「ペット……？ つて、どうい……
35 ううん、なんでもない！
36 ペットにでもなんでもなるよー！」

1
2 【1】
3 北斗「二度と姫ちゃんを怒らせないし、
4 悲しませたり傷つけたりしないって誓うから……！
5 ああ、よかった……！
6 ねえ、救急車よんで……早く、お願いだ……」

7
8 【ヒロイン「大丈夫。私が手当てするから」】
9
10 北斗「え……？
11 ひ、姫ちゃんには手当てできないよ……！
12 ちゃんと病院いかないと……」

13
14 【ヒロイン「じゃあ手当しなくていい？」】
15
16 北斗「待つて……！ 違うんだ！
17 ごめんね。姫ちゃんに手当してほしい。
18 救急車なんていらなから……！」

19
20 【ヒロイン「治療道具取ってくるから、待つてて」】
21
22 SE：立ち上がる衣擦れ
23
24 北斗「ああ、待つてる。待つてるから……
25 薬とか持つて、ちゃんと、戻ってきてくれるよな……？
26 このままここに、死ぬまで放置したりしないよな？」

27
28 SE：ヒロインの足音
29
30 【5→13】
31 北斗「なあ、戻ってくるって言ってくれよ。
32 愛してるから……！ 本当だから……！
33 おいてかないで！ 捨てないで！
34 助けて……助けてええええ……！」

35
36 SE：背後でドアを閉める音

ホ

ヒ

←

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【ドア向こうでコンシエルジュが待っている】

【1】

コン「お疲れ様でございました。

お気持ちは晴れましたか？」

【3】

コン「後のことは、当社にお任せください。

跡形もなく、すべての痕跡を消しておきます。

けれど、もし彼を許してもいい、

死なせたくなないとあなたが思っているのなら、

どうぞ、お急ぎの決断を。

あまり、長くは持ちそうにありませんから——ね」

■トラック3 生涯飼育

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34

【1】
コン「優しく」そうですか。彼を、お許しになるんですね。
あなたは本当に、心根の優しい方だ。
ああ、心配には及びません。
ペットの輸送も、飼育環境の整備も、すべて私にお任せください。
アフターケアもサービスのうちですから。
どうぞ、お幸せに。」

■場面転換

ヒロインに。ペットとして飼われることを選んだ北斗。
一か月が経過した現在も、コンシェルジュが用意した部屋（内装は割と普通のマンション）に監禁されている。
毎日ヒロインが世話に来てくれるが、いつ彼女が来なくなるかと怯えている。

SE 廊下を歩く音。

SE 鍵開ける

SE ドア開く

【6】

北斗「嬉しそうに」あ、姫ちゃん！

待ってたよ！ 今日、来るのおっせーんだもん……！」

SE ドア閉める

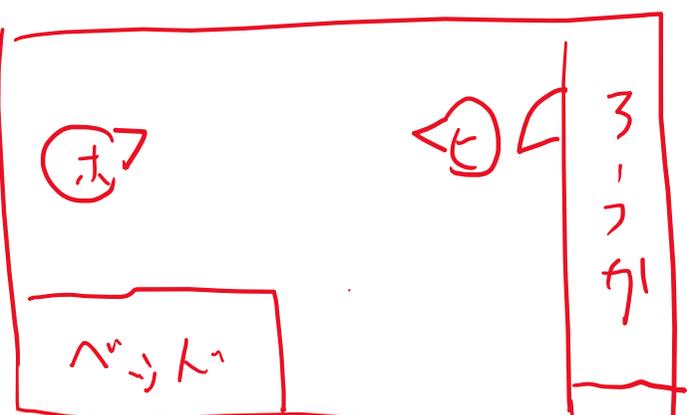
SE 鍵開ける

【ヒロイン「仕事が忙しくて。足の傷はまだ痛む？」】

北斗「足の傷？ ううん、もう全然痛くない。

姫ちゃんが一生懸命治療してくれたから。

ねえ、早くこつちきて。ぎゅーってさせて」



2重トビラ

1 【9】
2 北斗「俺からそっち行きたいけど……ドアに近づいたら、
3 俺が逃げるんじゃないかって心配するだろ？」
4

5 【ヒロイン「逃げようとしなの？」】
6

7 北斗「逃げないよ。」
8

9 俺、そこまで馬鹿じゃないから。
10

11 姫ちゃんを怒らせたり、殺したりしたら、
12

13 二度とここから出られないってわかってる」
14

15 北斗「だから、姫ちゃんに全力で愛してもらおう努力をして、
16

17 北斗君と一緒にお外デートしたいな♡って思ってもらうのが、
18 俺にとって一番ってわけ」
19

20 【ヒロイン「そんな日が来るといいね】
21

22 北斗「うん。きつとくるよ、そんな日が。
23

24 だって、俺は姫ちゃんのペットだろ？
25

26 姫ちゃん、ペットの事すごい大事にするタイプじゃん。
27

28 だからほら、こっちきて。キスさせて」
29

30 SE：足音
31

32 SE：抱きしめる衣擦れ
33

34 【1】
35

36 北斗「ん〜♪ 姫ちゃん、いい匂い。
37

38 来る前にシャワー浴びてきたんだ。
39

40 俺も、体きれいにしといたよ。俺って、できるペットでしょ？
41

42 ご褒美くれる？ キス、させて……ん、ちゅ……」
43

44 【ディープキス十秒程度】
45

46 北斗「あは……♡ もう勃ってきちゃった。
47

48 ねえ、今日こそさせてくれるでしょ？
49

50 ケガもよくなったし、これ以上お預けされたら死んじゃうよ」
51

→ (ホ) ← (ヒ) ← ヒロインから
近づく

1 【ヒロイン「はいよ!」】

2

3 【1】 北斗「ほんと!? やった!

4 なあ、ベッド行こう。早く早く」

5 SE:足音

6 SE:ベッドに座る

7 SE:ベッドに倒れる衣擦れ

8 【ヒロイン、北斗を仰向けに寝かせる】

9 【1 少しはなれて】

10 北斗「え……? 姫ちゃんが上になってくれるの?

11 心配してくれてるんだ。

12 変なの。自分でやったくせに♡

13 でも、足は本当にもう大丈夫なんだって。

14 これじゃ、俺がご奉仕されてるみたいで落ち着かないよ」

15 【ヒロイン、北斗の服を脱がせてフェラを始めようとする。】

16 SE:ベルト外す

17 SE:ファスナーおろす

18 SE:ズボンずらす衣擦れ

19 SE:ベッドの軋み

20 北斗「姫ちゃん? 【慌てて】あ、こら……!」

21 フェラなんてしなくていいって!」

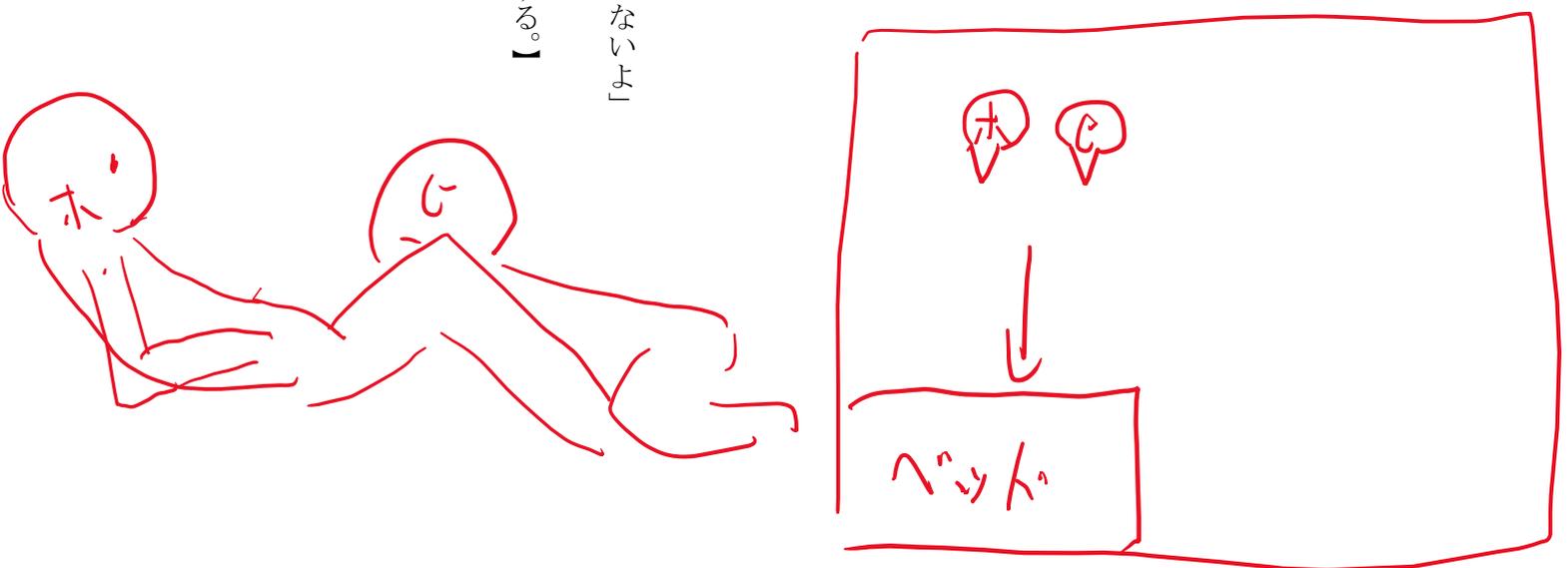
22 SE:フェラ音

23 【1 上から】

24 北斗「あっ……ちょっと待って……!」

25 やばいやばいやばいって……!」

26 久々だから、これ……すぐにっ……!」



1 【1 上から】

2 北斗「あ、ああ……きもち……」

3 はあ、はあ……

4 舌、もつと絡めて……

5 そう、それ……ああ……ッ！

6 気持ちい……上手すぎ……あ、ああ……」

7
8 【ヒロインが攻め手をゆるめ、少し冷静になる北斗】

9 北斗「ん、く……」

10 ねえ、それ……焦らしてる？

11 いきそうで、いけない……

12 つらいよ、俺。

13 お願い、姫ちゃん……場所変わって。

14 俺が上になりたい」

15
16
17 【ヒロイン、フェラをやめて騎乗位で北斗にまたがる】

18 SE:体位変える衣擦れ

19 SE:ベッドの軋み

20 北斗「え……？ こ、このまま？

21 もう入れるの？

22 俺、まだ姫ちゃんに何もしてないよ。

23 ちゃんとご奉仕できるから。

24 まだ入れたくないよ、姫ちゃん、姫ちゃんってば……

25 【奥まで挿入】あぁッ……！」

26 SE:挿入する水音

27 北斗「なんで……こんなッ……！

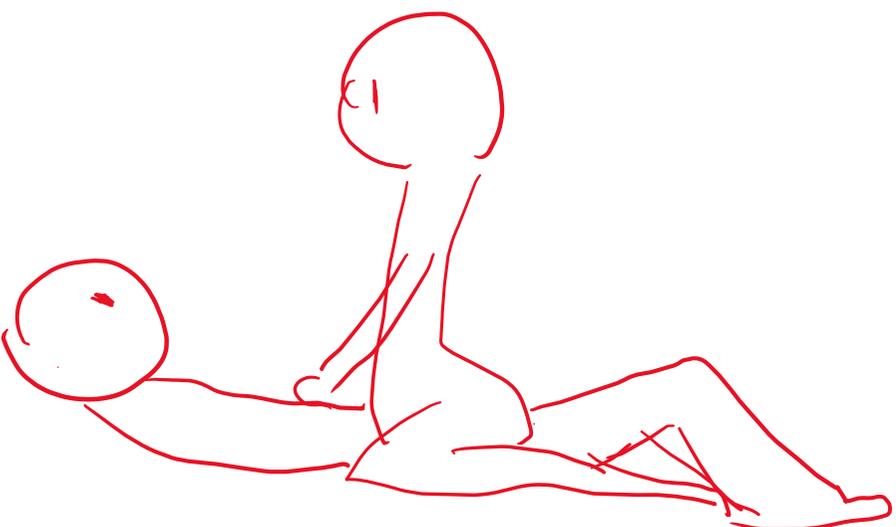
28 ああ、なか……キツ……口より、ずっといい……

29 俺の事いじめて、興奮したの？

30 意地悪なご主人様だな……

31 ねえ、おっぱい、触っていい？

32 見てるだけなんて我慢できない」



1
2
3 【ヒロイン「はいよ!」】

4 北斗「やった!」

5 あー、この姫ちゃんのおっぱい、大好きだ。

6 やわらかくて、あったかくて……

7 体起こして、おっぱい舐めていい?

8 ほら、体こっちに寄せて」

9
10 SE: 体位変える衣擦れ

11
12 【北斗、 上体起こして対面座位に】

13
14 北斗「ふふ、もう硬くなってる。

15 ん〜ちゅ……ちゅ。

16 じゅる……ッ」

17
18 【胸舐めるリップ音30秒程度ください】

19
20 【1】

21 北斗「はあ、ああ……これ、やばい……」

22 ねえ、キスしよ?

23 キスしながら、

24 きゅうきゅうしまるおなかの奥ガン突きして出したい

25 いいでしょ? ん……ちゅ」

26
27 【キスハメ1分程度、 激しめの吐息ください】

28
29 【1】

30 北斗「ああ……いきそう……」

31 ぎゅーってして……俺の首に腕回して……!」

32
33 【3の耳元でフィニッシュまでの吐息ください】

34
35 【北斗、 射精後もヒロインの事をしばらく抱きしめている】

36



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

【3】
北斗「あく気持ちよかった……」

姫ちゃんと俺の体の相性って、ほんと世界一だよな。
ここにいると、一日中姫ちゃんの事ばかりかんがえちゃうんだ。
次は姫ちゃんをどうやって喜ばせよう、
どうやって姫ちゃんに好きになってもらおうって、
そればっか考えてる」

【ヒロイン「外に出たいから？」】

【1】

北斗「んー……外に出たっていうより、姫ちゃんといたいんだ。

俺、ずっと一人で生きてきてき。

人を騙して、傷つけて……そうしないと生きていけないと思ってたんだ。

けど、こうやって姫ちゃんに飼われて、

姫ちゃんにだけ愛されてればいいんだって思ったら、

急に気が抜けてき。

こういうのもいいのかなって……

だからさ。

俺の事、一生大事にしてね。

ご主人様♡」

END